

^ 13
3737
1

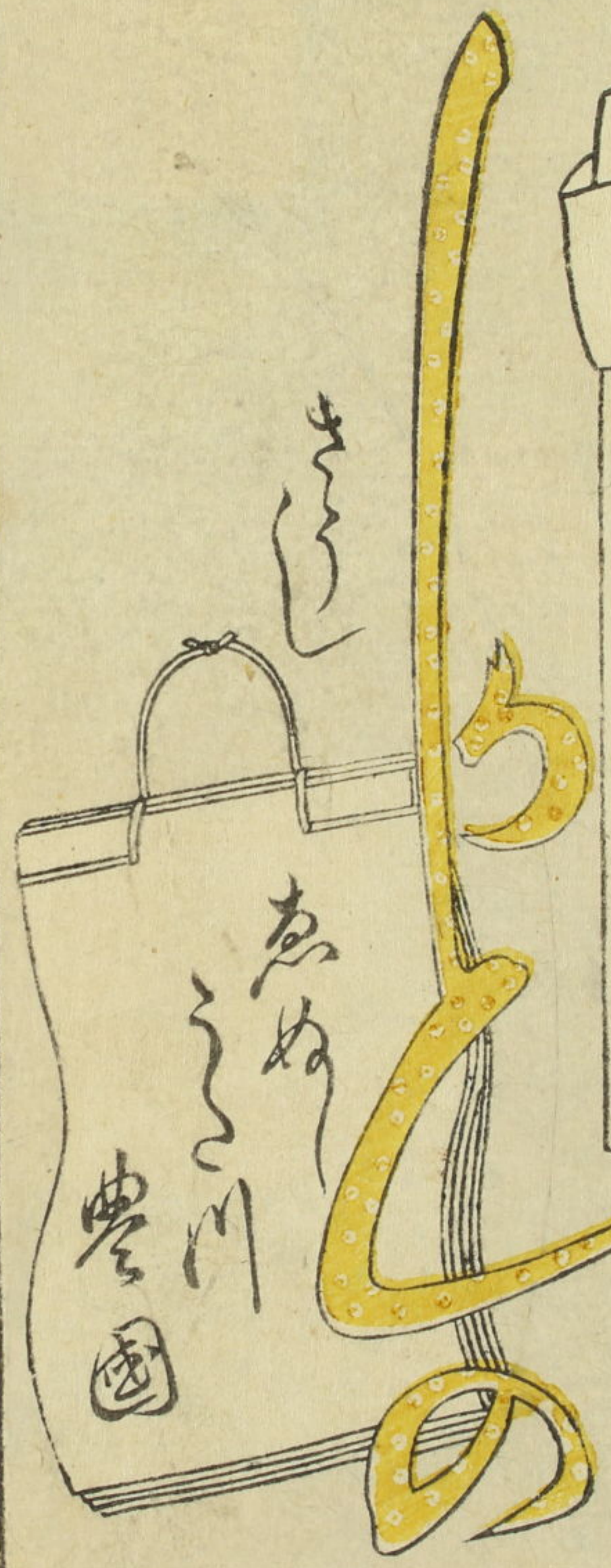




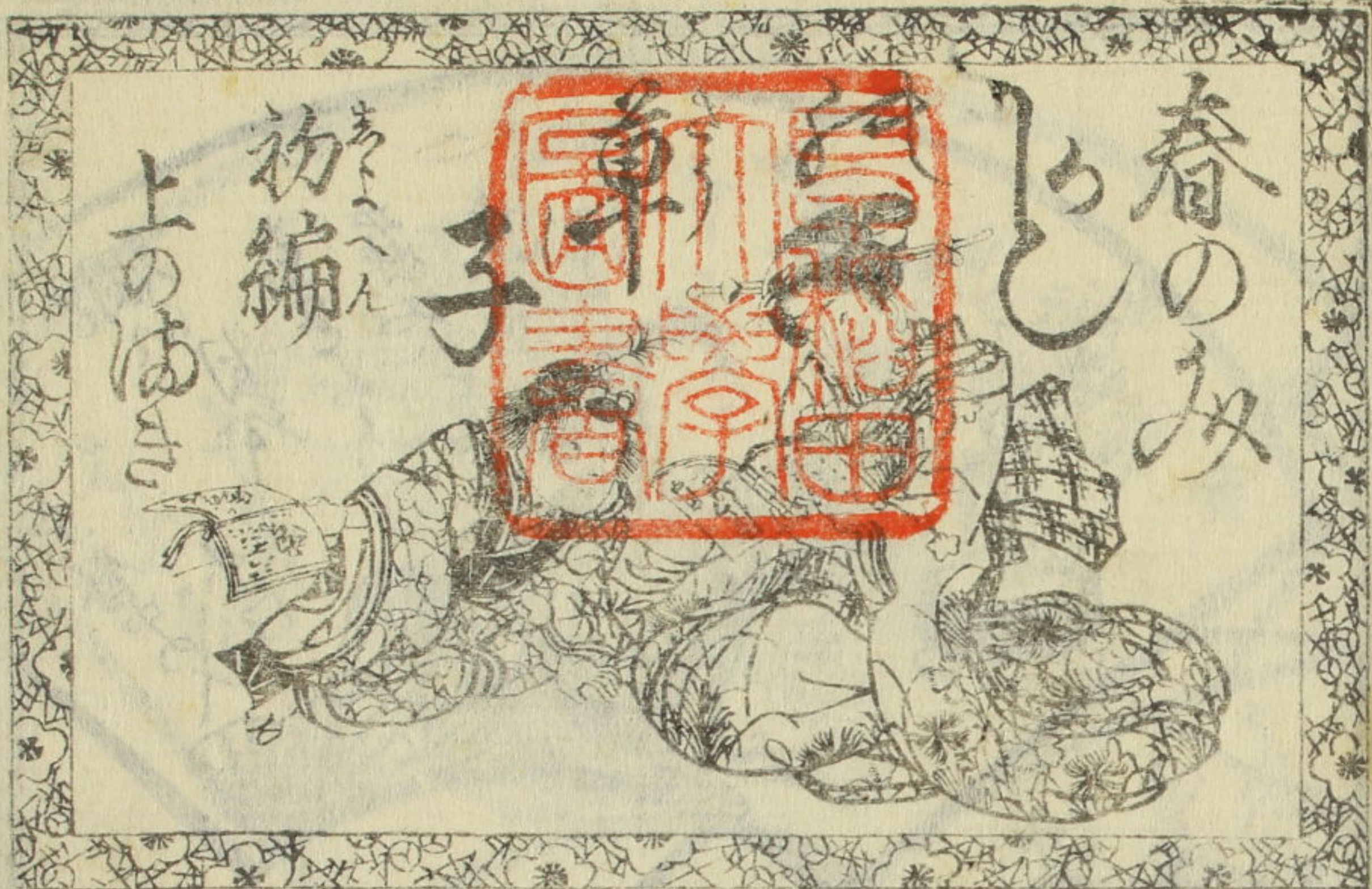
明へ13
 號3737
 卷1

唐史

京山
 山本
 せん



一



唐史の大いりし作りの荀子との尺物の
 十二巻目天論篇と天道篇をあらわす
 と説き事詳多それを摘で謂は天のさる
 自らの人小狭も幸も命に玉の人の行の善
 悪をアそよもあくも志を是を天職といふ
 とりつるものたをいしといふも善人を奉
 て善を勧め悪人をいごとて悪を懲り責
 小よそてをいふかききるをいひもたれれ
 たる柳史の作者がいふといふむすんと
 せん下りしめごとくしし小敘
 弘化四年未春稿本
 五年申春新板
 山東庵京山



さ
一
刀

九年
祇空
羊保
若海
十
年



うたの中
おのゝ
おのゝ
おのゝ



おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ



おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ



おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ



明和中
西澤氏のつま
おのゝ
おのゝ

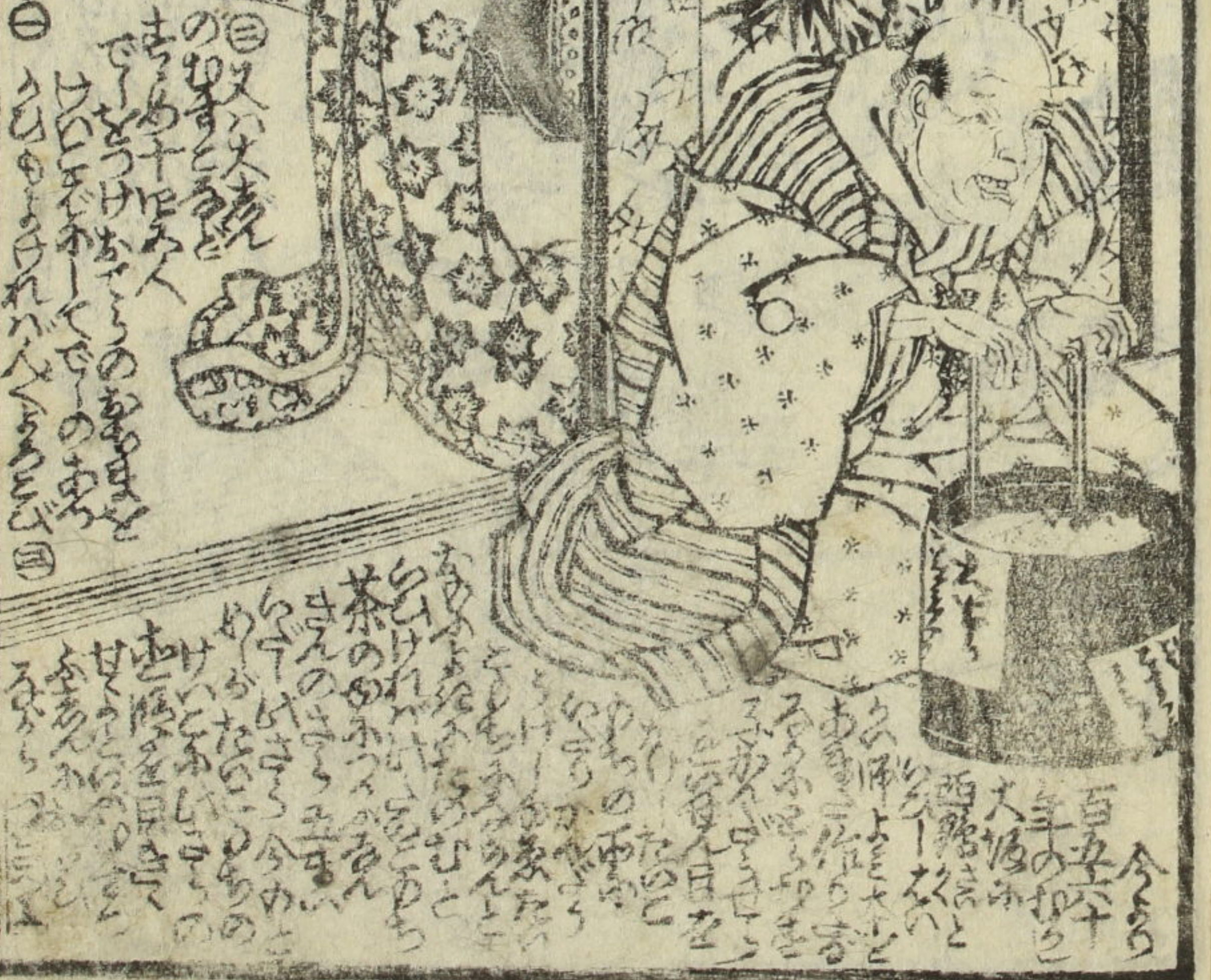
跋端

今ハ世ハ... 孫作... 百姓... 孫作... 百姓... 孫作... 百姓...



百姓孫作

山川... 孫作... 百姓... 孫作... 百姓... 孫作... 百姓...



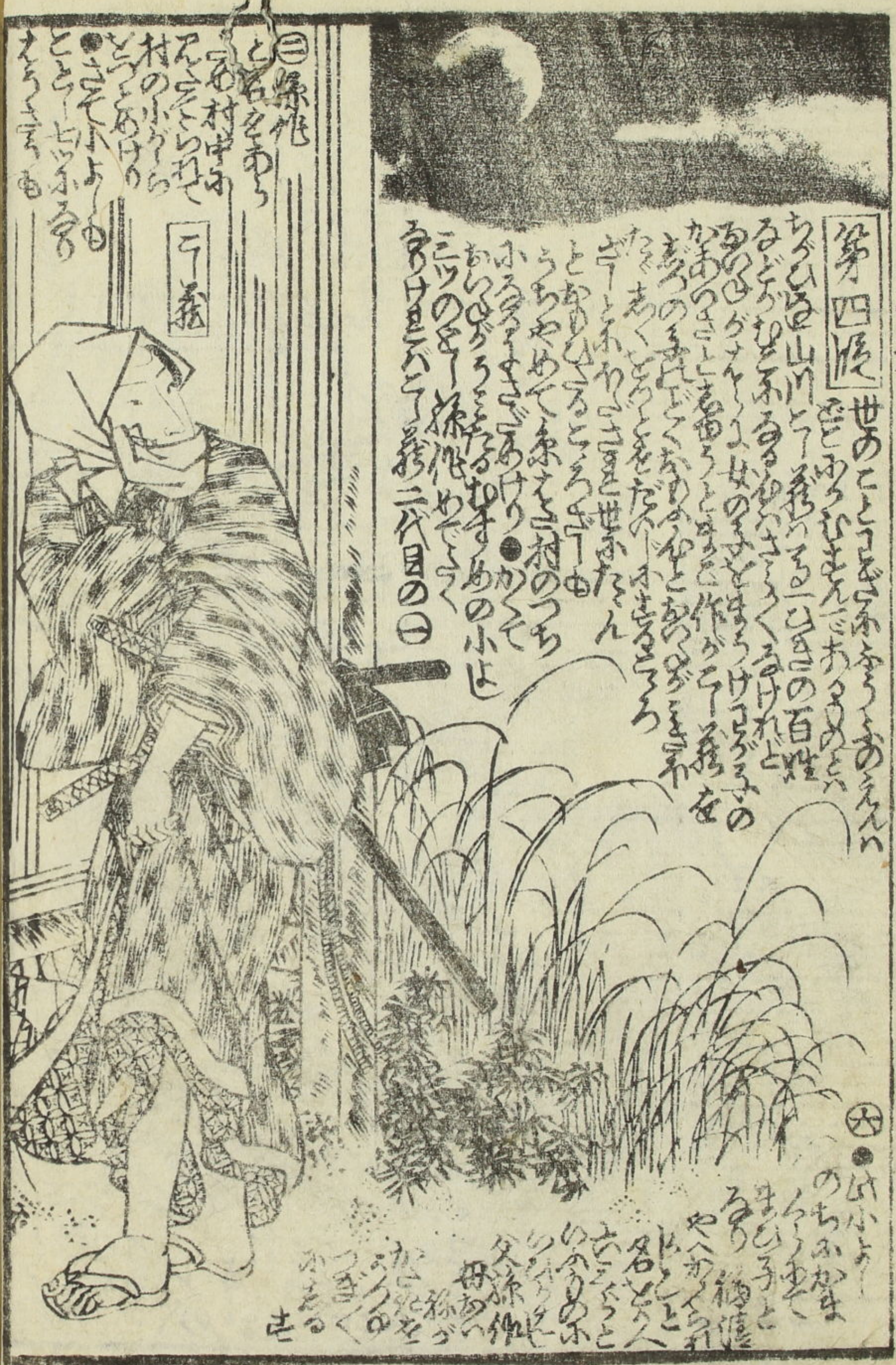
百姓孫作



あさ
あさしくあつた
あさくさきふ
あさ

あさしくあつた
あさくさきふ
あさ

あさ



あさ

あさしくあつた
あさくさきふ
あさ

あさ

あさ
あさしくあつた
あさくさきふ
あさ

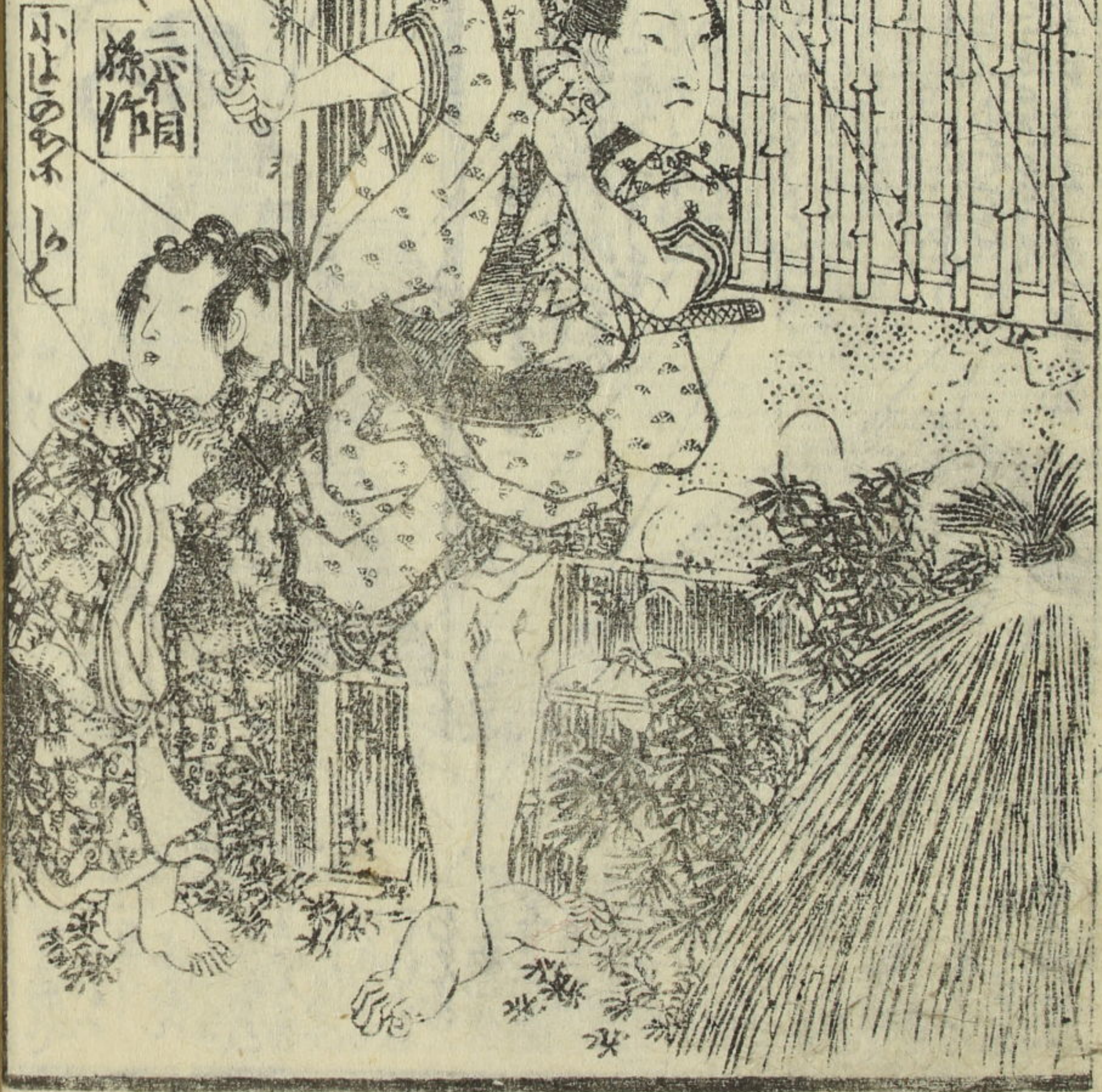
あさしくあつた
あさくさきふ
あさ

①
 さいりつと
 村であらうと
 さうするに
 まはるあつ
 やすしん
 ちんてい
 あつちん
 あつちん
 あつちん



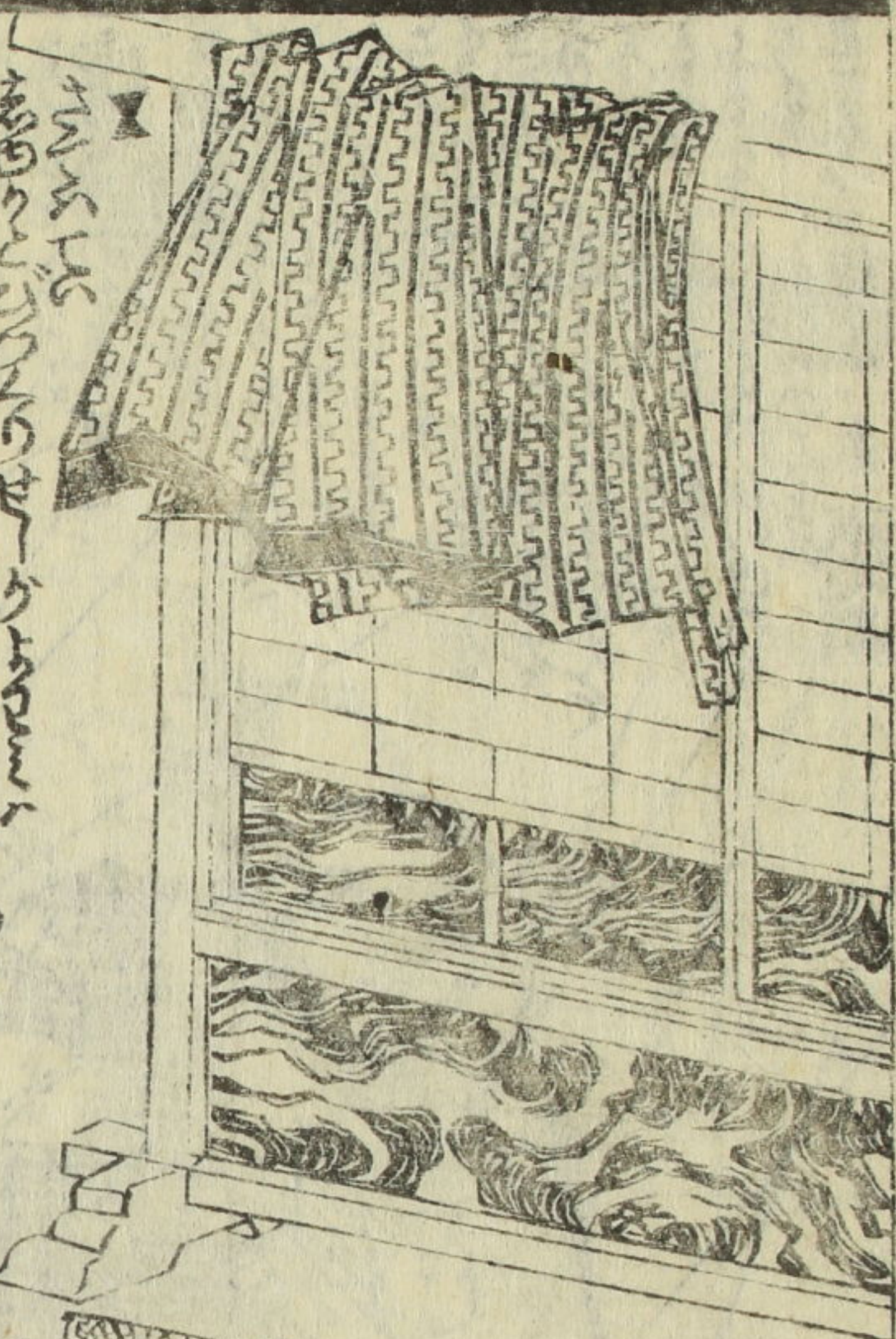
わか

②
 さうと
 のち
 ひつと
 のち
 のち
 のち
 のち
 のち
 のち



小はのふ

しと



あやまりまう... 大平一平



口上 江戸京... 長生丸...

あやまりまう... 第六巻



あやまりまう... 第六巻

孫作一平あひの

孫作一平あひの



神無月
 とそこのねが
 これをこころ
 このうちをこころ
 あはれおのの
 小よりこころ
 こころをこころ
 あはれおのの
 小よりこころ
 こころをこころ

こころを
 こころを
 こころを
 こころを

こころを
 こころを
 こころを
 こころを
 こころを



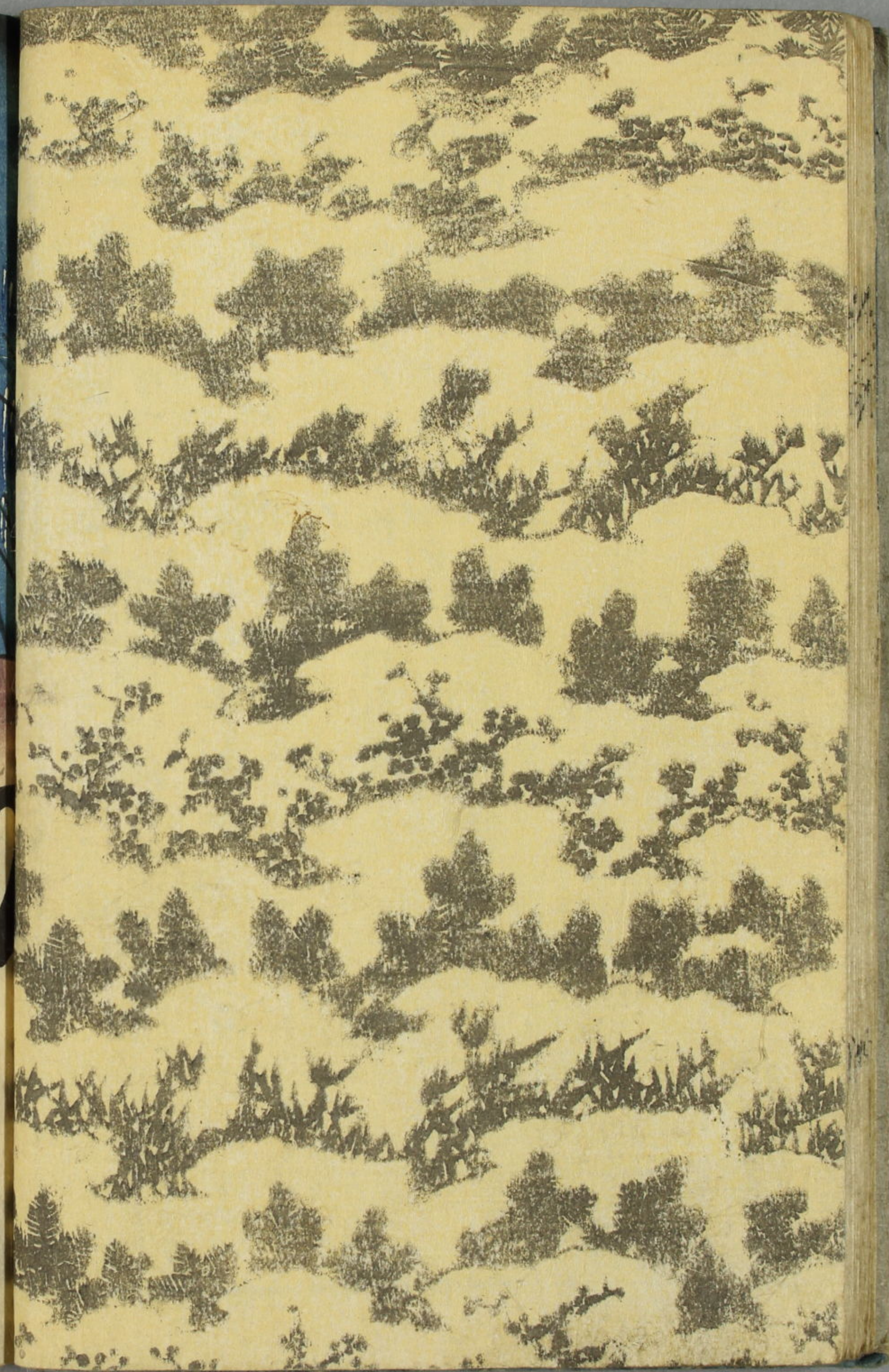
こころを
 こころを
 こころを
 こころを
 こころを
 こころを

こころを
 こころを
 こころを
 こころを
 こころを
 こころを



編

初



初は
の下

江戸京をいばる三丁目京でんせ
 女は初は某男大あやう
 懐妊丹後ゆく 又五女
 いゆふふあやうあやうあやう
 あひとそは初らあやうあやうあやう
 ちかぬあやうあやうあやうあやう
 ひろあやうあやうあやうあやう
 三三のあやうあやうあやうあやう
 ついあやうあやうあやうあやう
 百廿二あやうあやうあやうあやう
 一あやうあやうあやうあやう
 かあやうあやうあやうあやう
 あやうあやうあやうあやう
 のあやうあやうあやうあやう
 たあやうあやうあやうあやう
 もあやうあやうあやうあやう
 ろあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう



百廿二あやうあやうあやうあやう
 一あやうあやうあやうあやう
 かあやうあやうあやうあやう
 あやうあやうあやうあやう
 のあやうあやうあやうあやう
 たあやうあやうあやうあやう
 もあやうあやうあやうあやう
 ろあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう
 とあやうあやうあやうあやう



京山作
 豊国画

し
 の

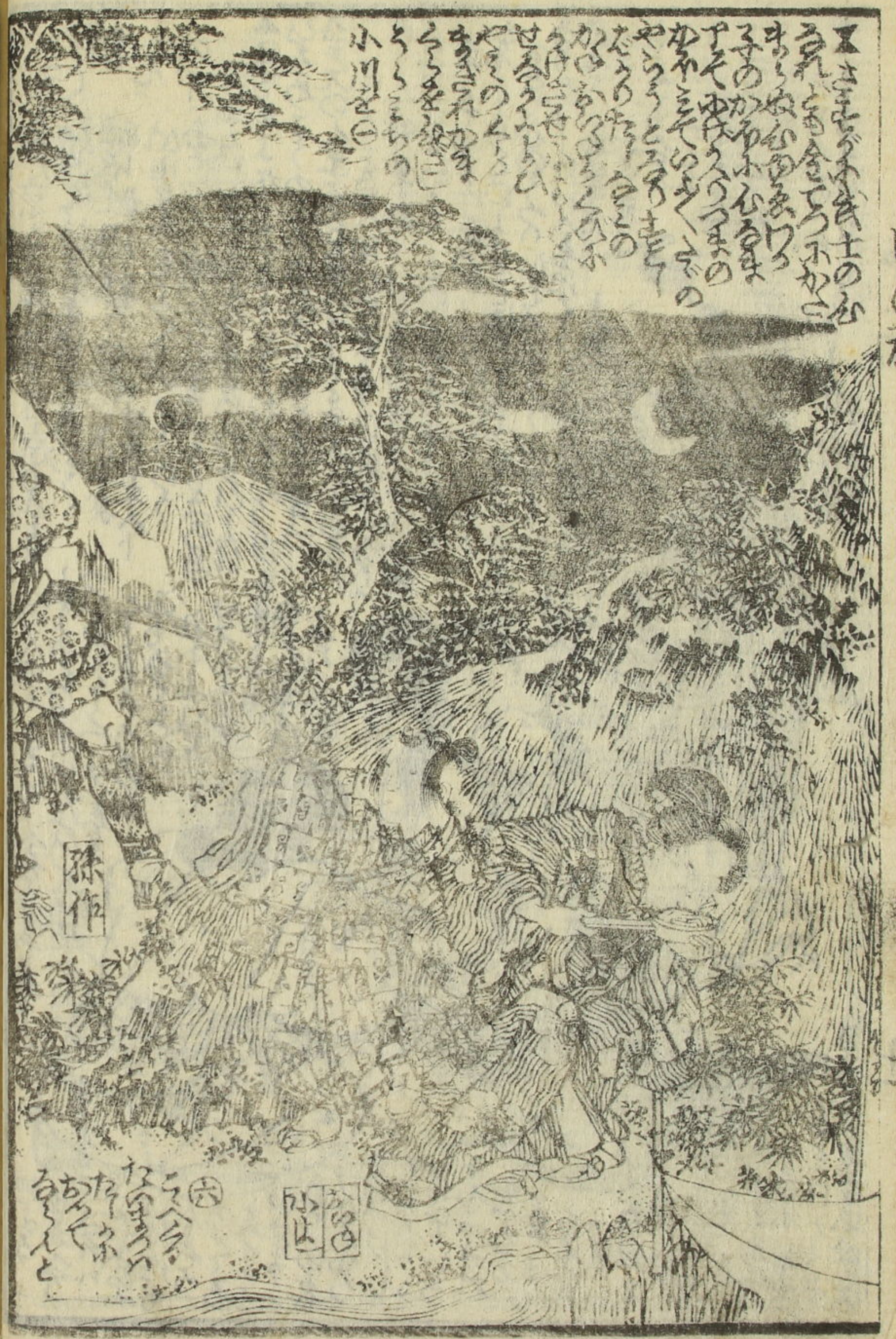
美はゆふ

初編下



栄久堂持

五、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百、
 小川さ



孫作

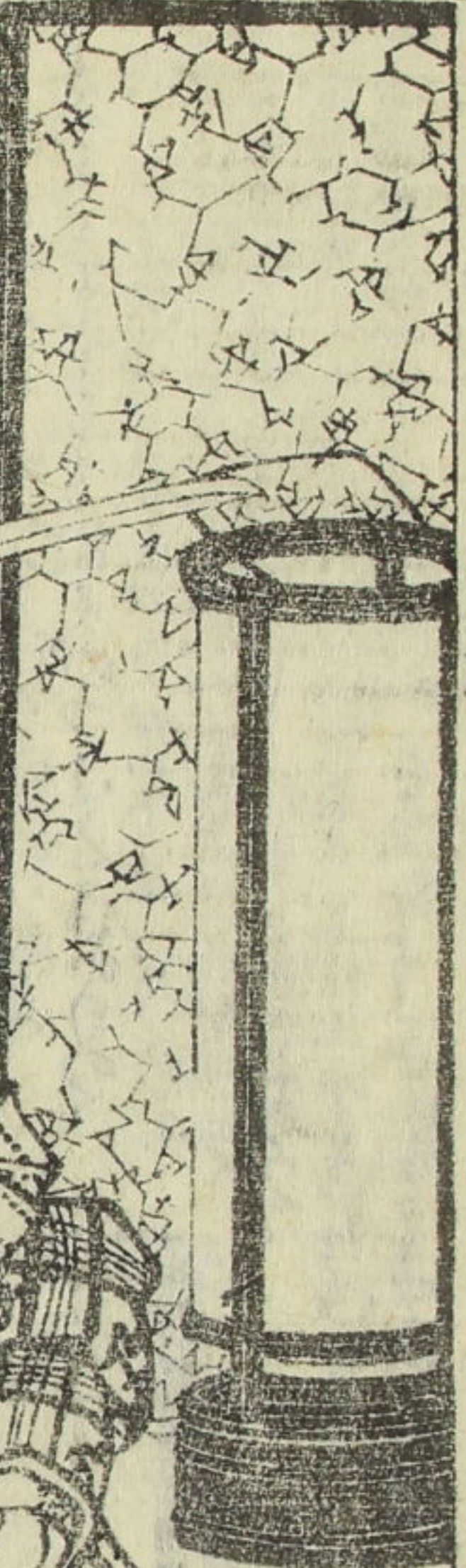
六、八、十、十二、十四、十六、十八、二十、二十二、二十四、二十六、二十八、三十、三十二、三十四、三十六、三十八、四十、四十二、四十四、四十六、四十八、五十、五十二、五十四、五十六、五十八、六十、六十二、六十四、六十六、六十八、七十、七十二、七十四、七十六、七十八、八十、八十二、八十四、八十六、八十八、九十、九十二、九十四、九十六、九十八、一百、
 孫作

一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百、
 孫作

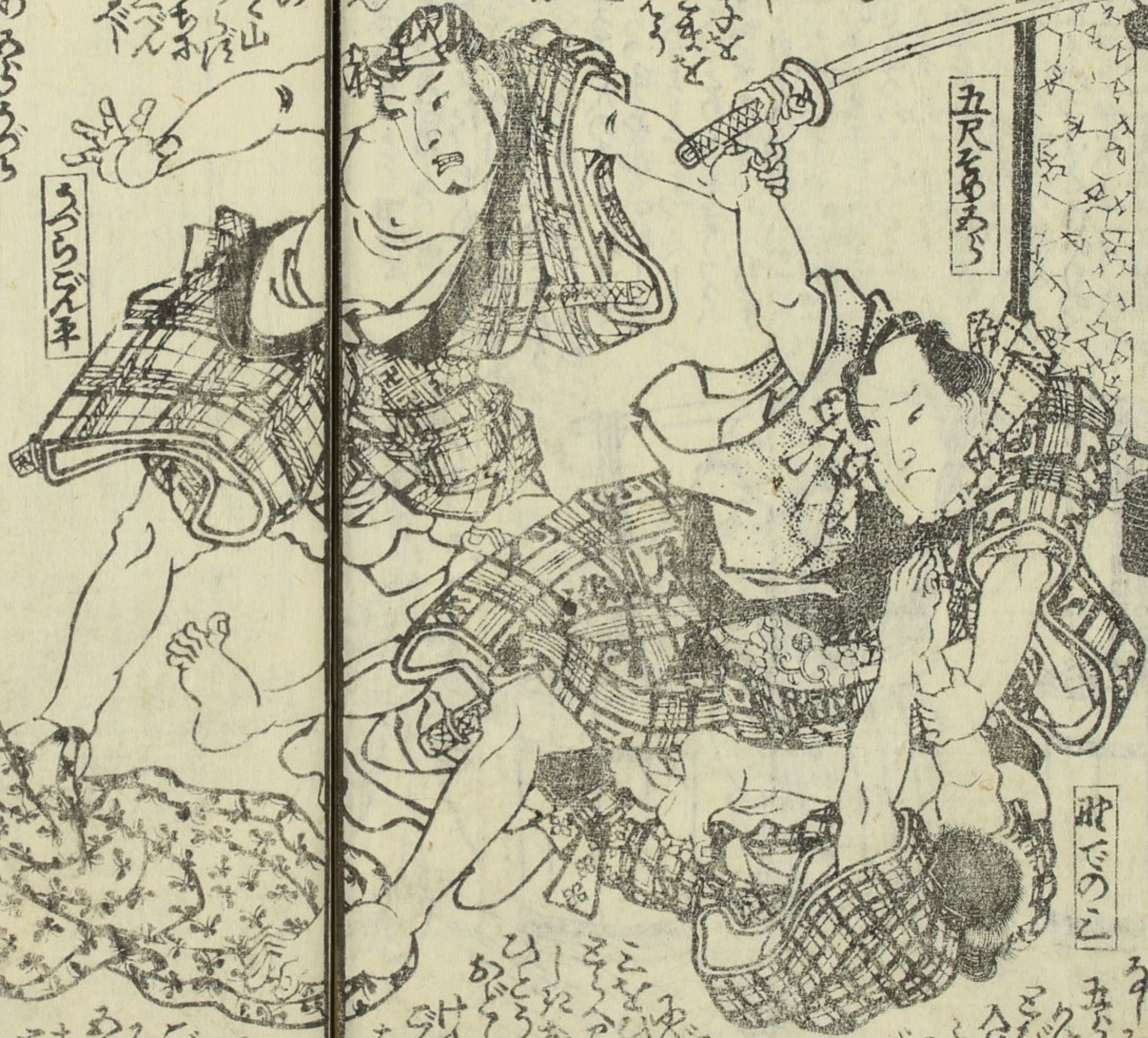


一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百、
 孫作

一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百、



五尺をあらう
 五尺をあらうとて
 まつたのたのみの
 むちまのあつた
 らのゆりててみる
 まつたのたのみの
 むちまのあつた
 らのゆりててみる
 まつたのたのみの
 むちまのあつた
 らのゆりててみる



第九段
 五尺をあらうとて
 まつたのたのみの
 むちまのあつた
 らのゆりててみる
 まつたのたのみの
 むちまのあつた
 らのゆりててみる

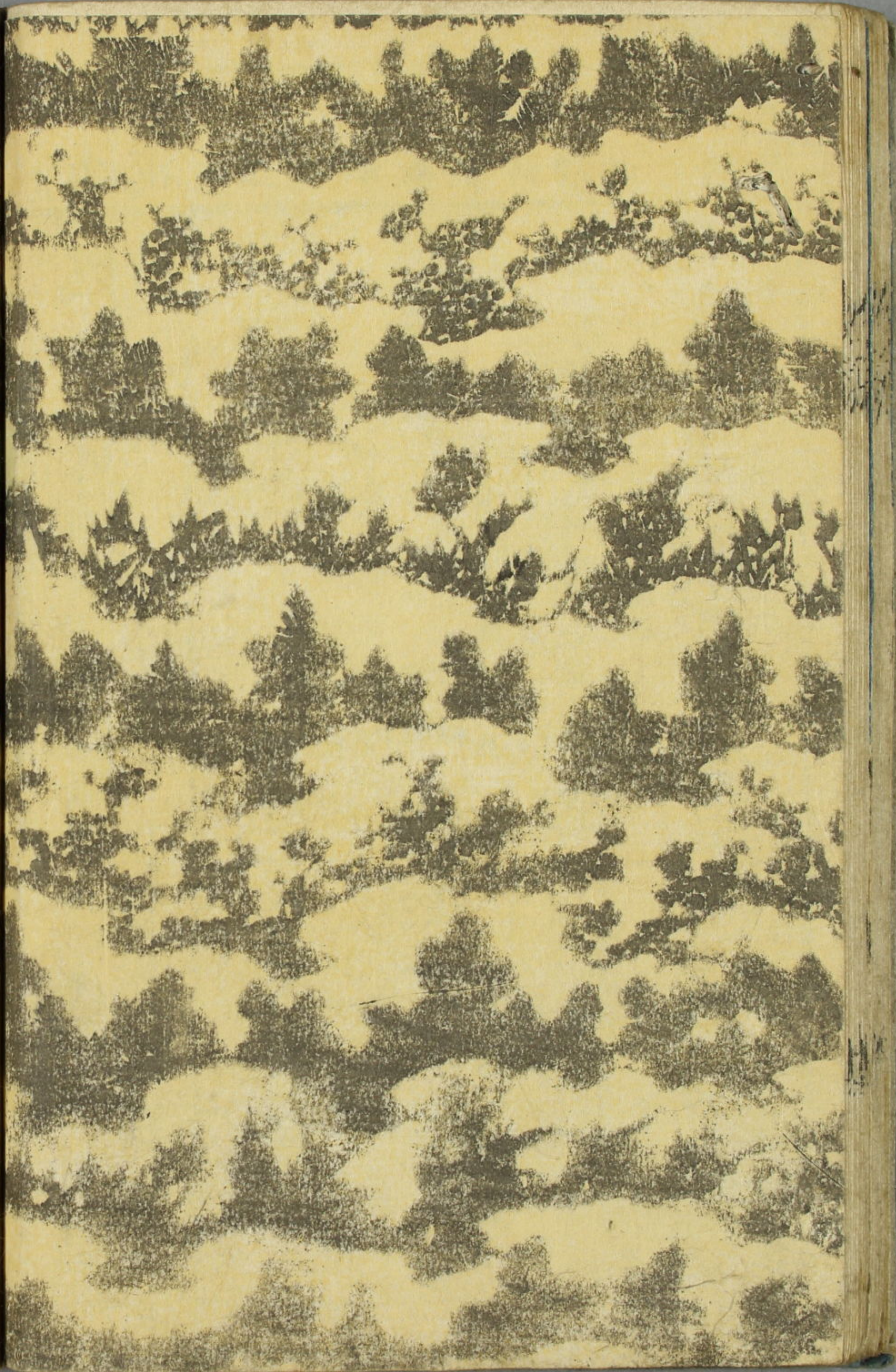
うらな平

第十段
 さるやと木の
 十五の村々
 ありあける
 村まらうの



第十段

さるやと木の
 十五の村々
 ありあける
 村まらうの



春法多

ししの

さし

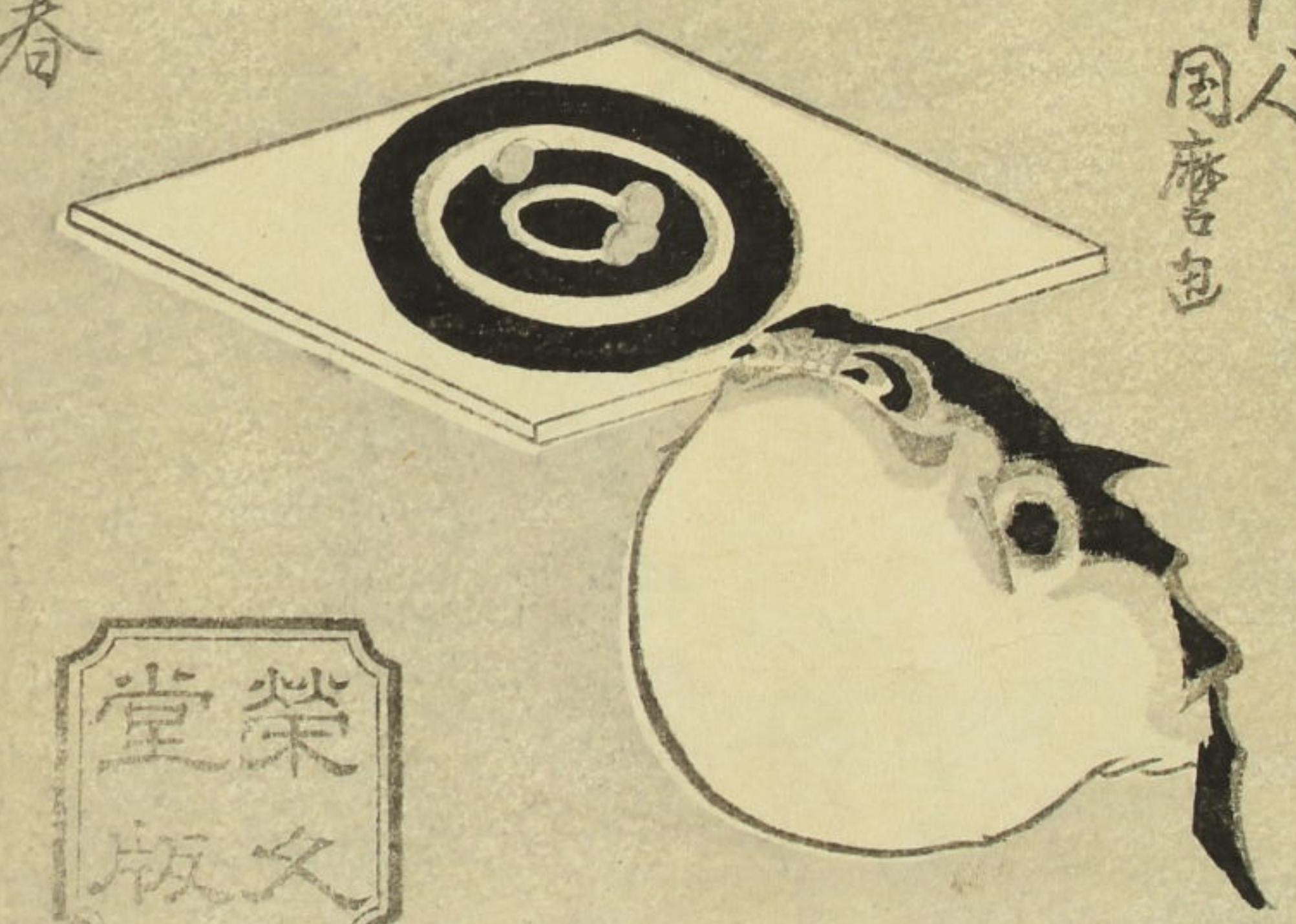
二層ん上

京山作

豊国画

弘化五年春

口人
同磨吉也



榮文
堂版

一

春秋左氏傳といひ世教の書物あり此書善人を奉
て善人と勸め悪人を載て悪と懲と悪人も載され悪の
悪なるを知るべく善人もまた然り善悪ありて善悪を
あらえれ見曹のあぐさ州るはよろき稗史も
悪人と載て悪人の終の凶窮とあり善人を奉
善人の末の幸福と知りむある事小準物小附
て教訓ぐまき事ともあるをりゆをつけて親玉の独
樂をまう紙寫とあけかけり玉えよ人のいと
めれまぢをもありあんたうのむまがまはあなもよ
まうらぬぬありむらん

弘化五年申春新板

山東庵

印



三浦屋高尾

北廓の遊女

万治二年

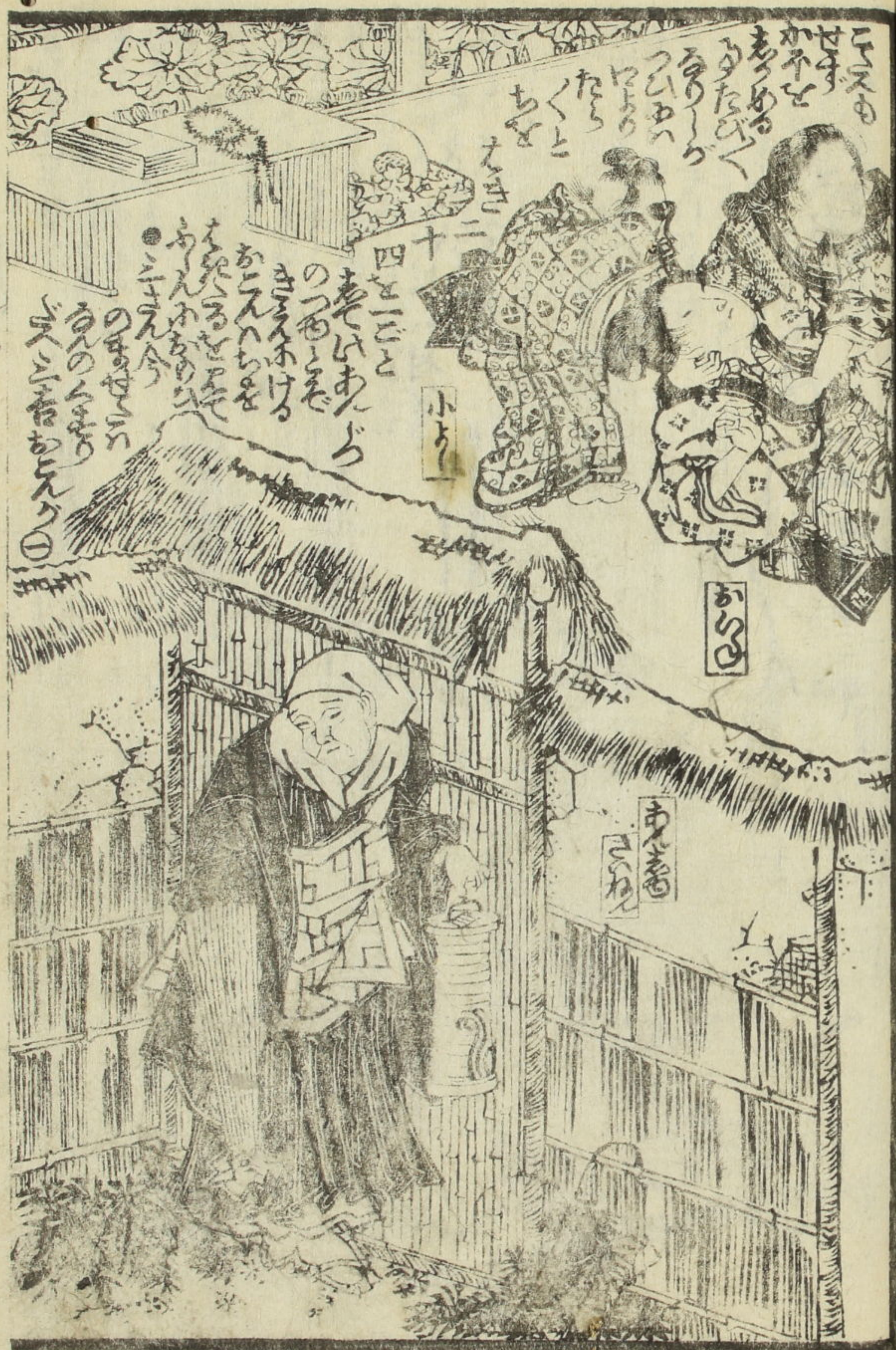
北国美人を出まきあはれ北方佳人あり
 とも江河清浄なるれは女佳節多し
 と謝肇淛が五雜俎のひも理
 水の清き国の女かゝる色白是布
 の白も越後の白縮ふまゝなる
 あ其国北よりその地水清
 まさきまの多ちこの女の美人と
 世ものひるりこれおよりてひを
 ざりしおのうら小うらとあち
 この女と一のあおしとく
 美人ありし事を一部の
 趣向とて三美人をあらふ
 のうて例の口繪のわら
 とをあげける



楊貴妃

小野の
小町

○三美人を田舎娘と云説
 小野の小町は出羽の郡司小野の良実の娘
 楊貴妃の蜀州の司戸元玉の娘云浦屋の
 遊女二代目万治のころは高尾は下野の國
 塩谷郡湯本の塩原村百姓長助の娘
 夜光の珠も時を得て人間はのれ由來
 天下に傳ふ美人もまご然り小町の小町
 も出羽小枯果と小町燕脂の名を
 のとて揚貴妃も蜀州元玉とて揚
 貴妃極の色は賞せりまてや万治の吉河尾
 伴とて眠る糸より糸へうられり名妓の名を
 のせりこれ夜光の玉の世のてうえは三美人とて北
 國の田舎むとあり北の閉位るり陰を女は属さ

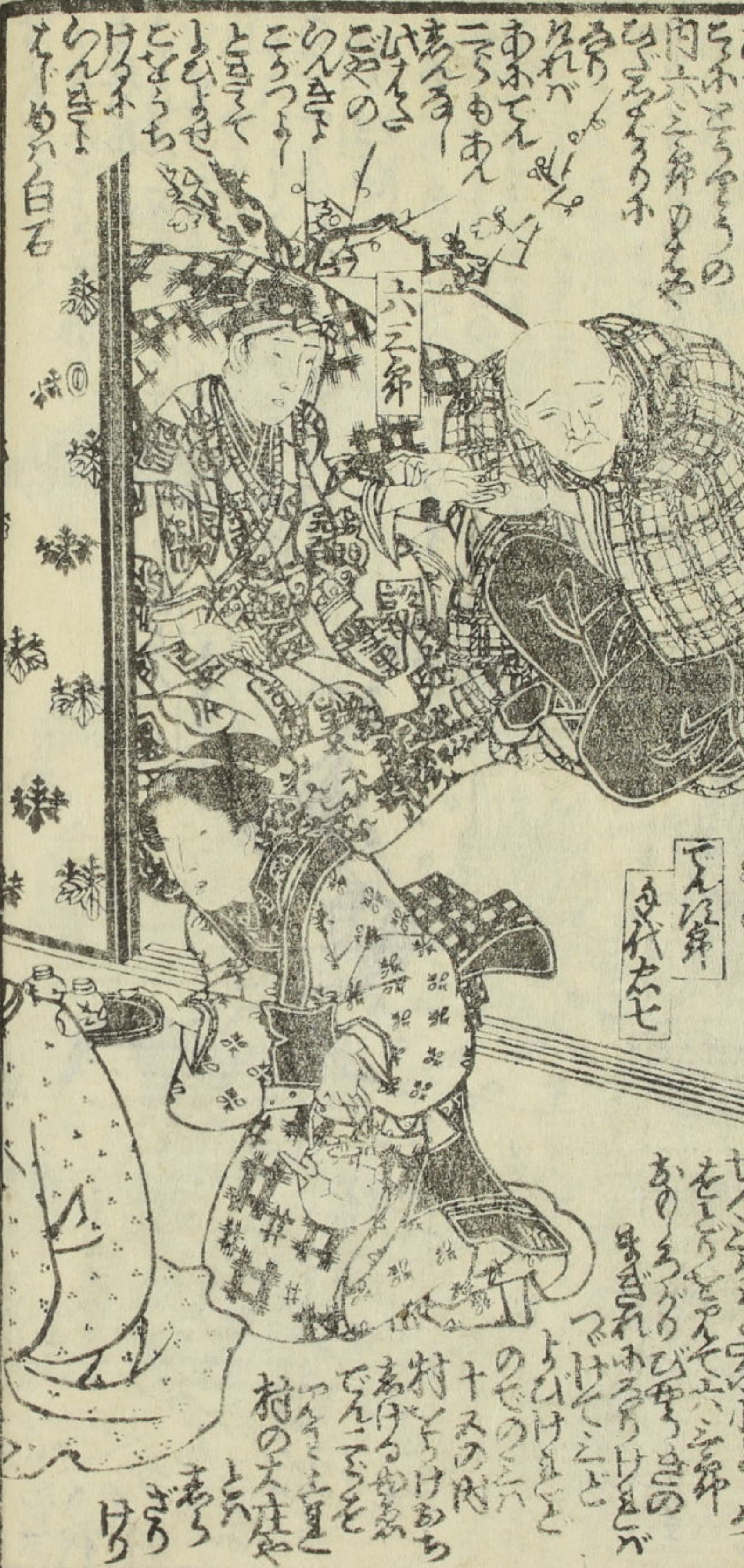


二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十

五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

△あつらひごとくまらりたる者も
も小暮りたる内六之風の
こちをまけしこちをみこまら
いしやとまのまてはこちを
くまらざるのませしむまら
ともまらりたる十日



てんげ舟
六之舟

くまらりたる
くまらりたる

○六之舟の
あつらひごとくまらりたる
べしあつらひごとくまらりたる
てんげ舟のついでにまらりたる
まらりたるのまらりたるの夜
よひけれがまらりたる
せんごうごうまらりたる
まらりたるまらりたる
まらりたるまらりたる
まらりたるまらりたる
まらりたるまらりたる
まらりたるまらりたる
まらりたるまらりたる

るひごでんたつふかまらりたる
白とあつらひごとくまらりたる
一たんまらりたるそのあつらひごとく
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる



その二

ついでにまらりたる
あつらひごとくまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる



六之兄

大正山持
六之兄
あつらひごとくまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる
まらりたるのまらりたるまらりたる



京山作 豊国画



しへん上のり

大のひてやう... なるもの... 小う... 大七かん... 大七かん... 大七かん...

驛路屋

小う... 大七かん... 大七かん... 大七かん...

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄

源氏六十四帖

源氏物語... 源氏物語... 源氏物語... 源氏物語...

御詠染逢山鹿子

御詠染逢山鹿子... 御詠染逢山鹿子... 御詠染逢山鹿子...

縁結妹脊双六

縁結妹脊双六... 縁結妹脊双六... 縁結妹脊双六...

東都錦繪所

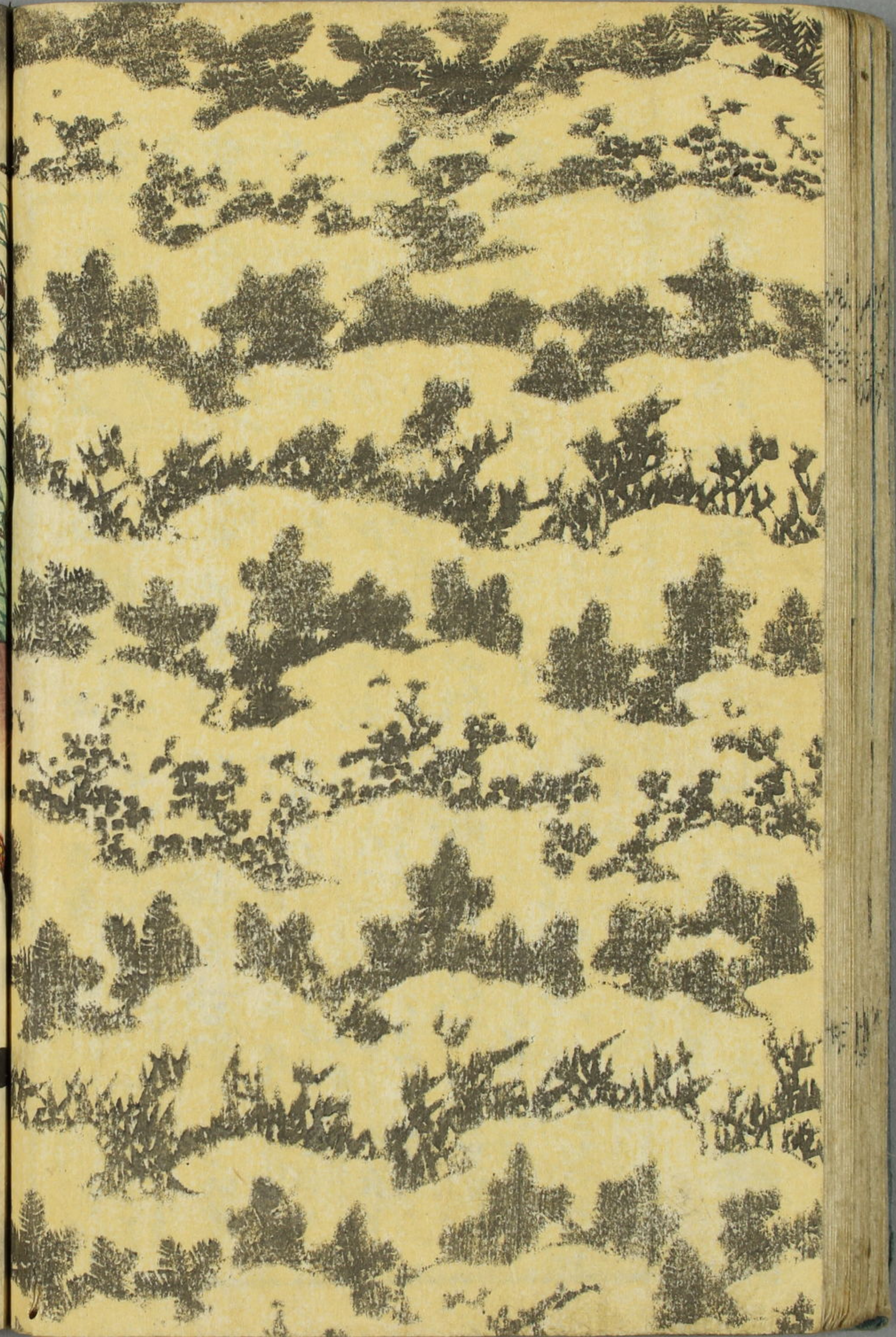
江戸町おやぢ橋角 山本平吉梓

藝國画



福

一



大庄や山のもてんてんてんてん
 豆作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし



大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし

孫作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし



大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし
 大庄や山のもてんてんてん
 豆作がやじとるりし

△あてがうらぐんどもあんとことととも
あてがうらぐんどもあんとことととも
あてがうらぐんどもあんとことととも
あてがうらぐんどもあんとことととも
あてがうらぐんどもあんとことととも

●江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上
江戸入りと口上



あこん

めん七

●田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹
田方大志んかへるゆん丹



第六版

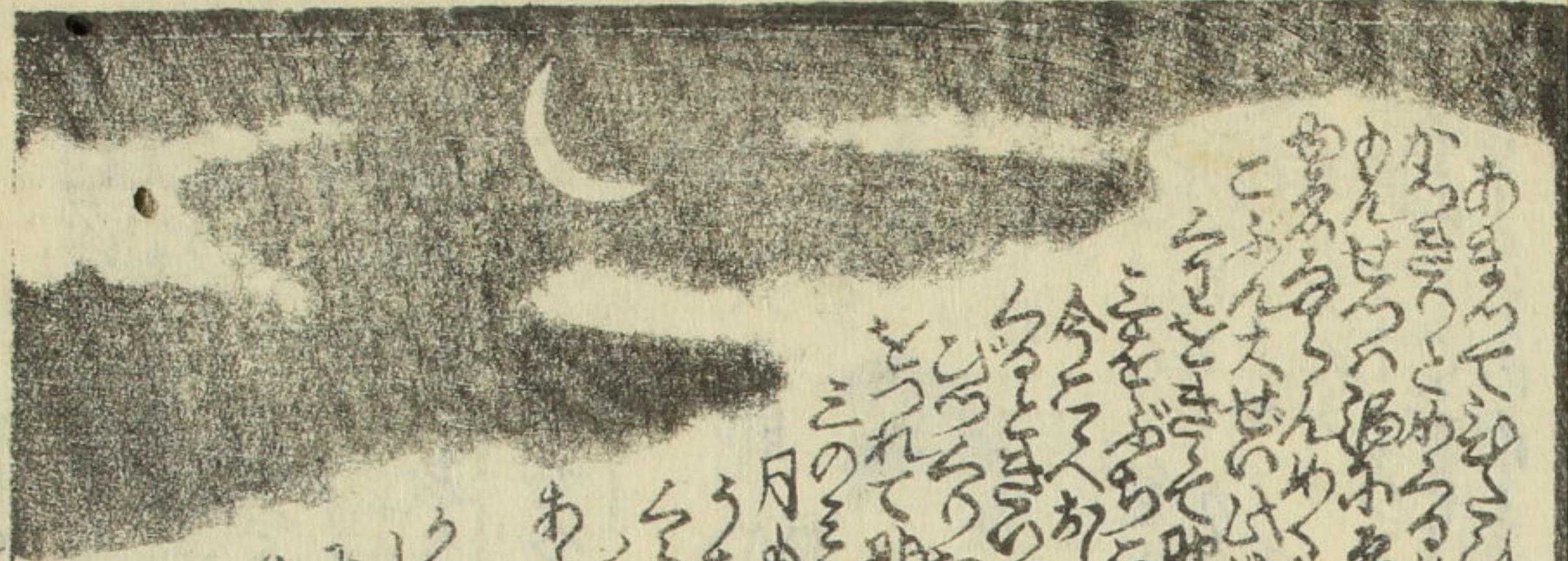
●この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世

●この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世
この後の世

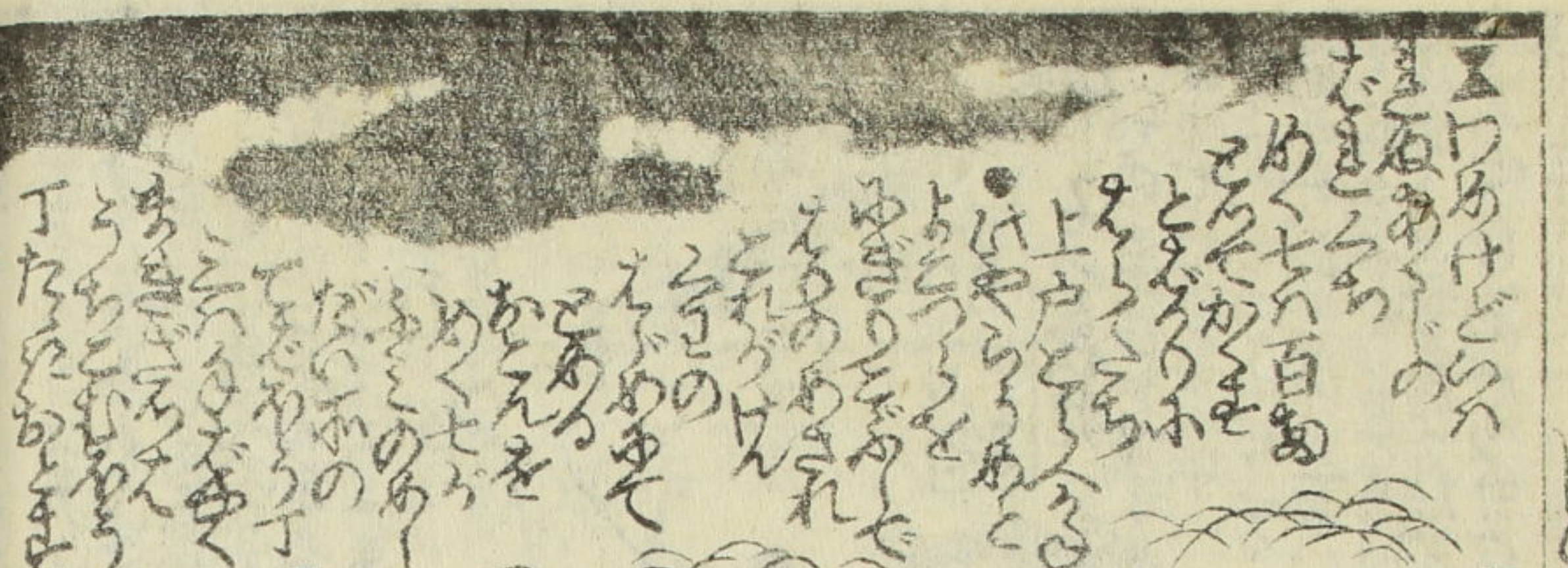
ゆん丹

あこん

あこん



あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ



あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ

ゆんせんの湯あひ

あまのついでに

あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ

あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ

第七段

あまのついでに

あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ
あまのついでに
かみきりてめくめく
ゆんせんの湯あひ

△判りたよりとてみるにまよつてびびりつと五十五
 六廿八やまのめのとてりやうをん△小見五く虫を
 小ともの虫けのちくのかまをちてちちやうね用あべ
 虫とやうなうかをうてちちりて代虫のねとさう
 金さうのやうなをさう
 △京山てんこく一な
 自画さん扇あるく

木のん 大庄やでん
 百あねのり
 小あ

六三郎

のひま
 せんいられが
 むり又百あ
 こく
 ようとひさる
 財そのと
 あち小
 るこ小
 してま
 きのいその
 まま

小よ
のあ



①一日とまのりの
 めくち
 〇
 二
 て
 五
 つ

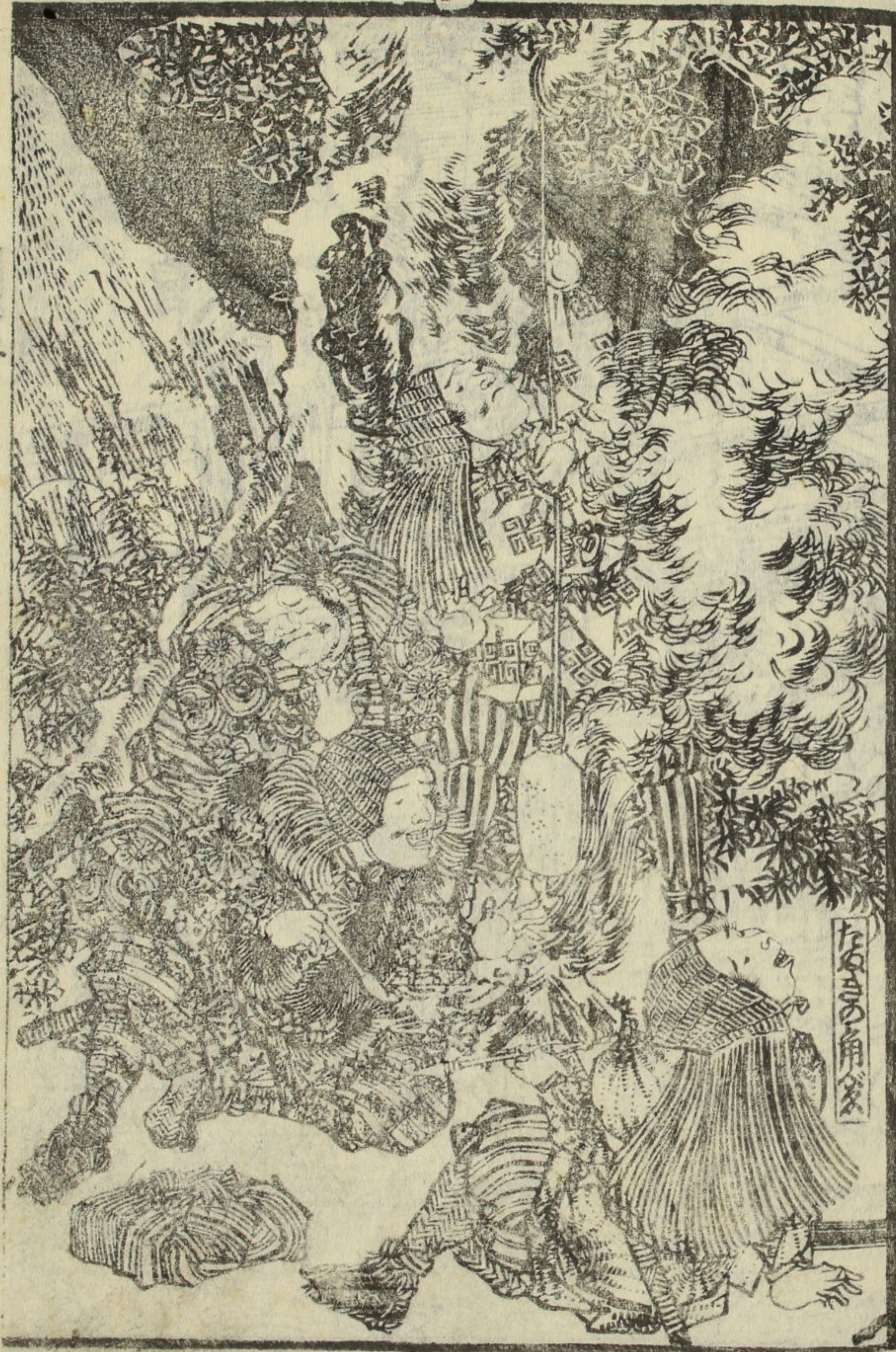
あくとるれが
 むいあ
 かくの
 〇
 六
 の
 む
 女
 ろ
 つ
 ろ
 ろ
 の
 入
 た
 つ
 つ
 は
 ①

てん

た七



あ
 の
 た
 そ
 や
 入
 ①



たぬきの角袋



かた

せんり

山つきの日にとおす
 八つやごころやうやうやうの
 たるけのゆめあはれさなみち
 ありとけいこふささおたりけ
 たりけをこえてささやありや
 ともあはれささやありや
 かの内よりささやありや
 ありとけいこふささおたりけ
 ありとけいこふささおたりけ
 ありとけいこふささおたりけ

①かたのくやまをけり
 ②かたのくやまをけり
 ③かたのくやまをけり
 ④かたのくやまをけり
 ⑤かたのくやまをけり
 ⑥かたのくやまをけり
 ⑦かたのくやまをけり
 ⑧かたのくやまをけり

曲豆國画の京山作



邯鄲諸國物語

初編八編遠東柳亭種彦作
九編十編新刻一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃

山東庵京山作
一陽齋豊國画
新刻編

仙女香七變化粧

汁返舎後一九作
一陽齋豊國画
二編

朧月猫のこぼし

山東庵京山作
一陽齋豊國画
六編七編

竹女一代記

五蘭齋作
哥川貞秀画
四編

雲の友との紙

山東庵京山作
一陽齋豊國画
初編二編
新刻

隅田川月姿見

式亭小三馬作
一陽齋豊國画
二編

美艶仙女香 一白四十銅
黒油美玄香 坂本氏製

榮久堂

江戸芳町親仁橋角
山本平吉版

京山作
豐國画

申春
新板

五泉画



春乃
毎
二編

榮久堂様



